

2050 年までにやってみたいこと

私が 2050 年までにやってみたいことは、自分でファンドを立ち上げて、人のお金を預かり、社会的に意義があるプロジェクトへの投資へとお金の流れを作り出すことである。

格差が広がり続ける資本主義システムへと、途上国の方々を飲み込んでしまう自己拡大性に恐れを感じている。その格差の広がりを縮小させ、かつ世界全体の効用を最大化させるためには、現在お金を持っている人から、これから挑戦をする人に対してお金を投じることが必要になってくるのではないかと考えている。もちろん、お金を投じることがその相手の幸せに直結するわけではないというのは確かだ。お金を使ってプロジェクトを動かすリーダーが必要であり、そのプロジェクトを実施するための科学技術が必要である。そして、現地で便益を被るカウンターパートがいるのであろう。そのような多様な関わり方がある中でも、私はやはりお金を融通する部分で携わりたいと強く思う。私自身、自分の手を動かしてプロジェクトに関わることに興味を持っており、熱中して取り組んでいた時期がある。しかしその中でどこまでも付き纏ってくる問題は、お金をどのように引っ張ってきて、どうお金を再配分して使い、どこから利益を生むのかという発想である。そのようなことを考えるプレッシャーの中では、どうしても現場の人の顔を見て、彼らの幸せのためのことを心から行うことは難しいのではなかろうかと感じた。お金をどこから引っ張ってくるのか、そのお金を出してくれている人にどのように説明を果たすのか、ということを経験が特化して行うことで、現場の一線で活躍する方々がプロジェクトに集中できるようになってほしいと切に願う。

そのために必要なこととして 3 つを考えている。まず一つ目は、投資をする側と投資をされる側のことを理解することである。どのようなことを求めて、考えて投資の判断を下すのかを理解することで、自分がお金を回したい方向へとお金を投じてくれる人を見つけ、提案することに繋げる。二点目が、現地への理解である。現地では何が足りなくて、誰がどう困っているのか、そして誰がお金を持つことで改善できるのかということである。現地への理解が不足している状況では、どのようなプロジェクトにお金を投じることが優先順位を高くすべきなのかということはわからないだろう。これは政策ですら優先順位をつけることが難しく、また多様なステークホルダーに気を配らないといけないがゆえに実行することもかなり難しい。そこに、プライベートセクターからアプローチできるが故の、機動力の利があると考えている。

もちろん、一つずつの個別の技術を習得することや、プロジェクトを実行し成功させる信頼できる人間が存在することも非常に重要である。そこは他者との協力で補っていきたい。

資本主義システム上における解決方法には、納得できているわけではない。たくさん勉強をする必要もあるだろうし、もっと深く社会の仕組みを考えたい。ただ、今はこんな淡く若い夢を抱いて取り組めたらと思う。